

瀬尾和敬議会便り

24. 3月議会

《討議資料》

平成24年第1回定例会は、2月23日から3月26日まで33日間の会期で開催されました。

24年度は、「新たな活力の創出=チャレンジ予算」というキャッチフレーズを掲げ、一般会計当初予算が前年度対比2.2%、11億3千万円減の502億9千万円と、2年ぶりの減額予算となりました。東日本大震災の影響で、財政の不透明感が反映された形です。

また、市債残高は、合併当初約620億円あったものが、年度末には約476億円に減少、基金残高は前年度対比6億円増で、120億円となる見込みです。

なお、今回は薩摩維新会の代表質問をしました。2ページ以降に質疑応答の概要を掲載します。



24年度当初予算 **502億9千万円**

示された政策重点項目について、主なものをお知らせします。(■は新規計上 単位:千円)

《ゴールド集落の再生活動支援》

- 買物不便地域支援モデル事業補助金…3,000 ○ゴールド集落定住促進補助金…16,080
- ゴールド集落活性化事業補助金…16,280 ○鳥獣被害防止施設設置事業補助金…2,870

《子育てしやすい環境づくりの推進》

- コウノトリ支援事業…10,500 ■へき地保育所施設整備事業(下甑)…9,000
- 子ども医療費助成事業…372,625 放課後児童クラブ指導員育成事業…31,958

《環境・エネルギー対策の推進》

- 新エネルギービジョン策定事業…35,014 ■次世代エネルギー推進基金事業…102,000
- 環境施設周辺整備事業(風力発電用の竜胆整備)…50,000

《社会基盤の計画的維持・整備》

- し尿処理助成事業(入来・祁答院)…3,000 ○川内グリーンセンター維持補修事業…184,002
- 川内甑航路開設事業…471,296 ■既存住宅改修環境整備事業…20,000

《シティセールスによる観光・交流人口の増大》

- 薩摩川内市観光協会運営補助金…31,200 ○観光交流イベント活用事業…10,500
- 観光・特産品・定住・セールス事業…7,486 ○シティセールスサポーター事業…2,056

《安定した産業(農林、畜産、水産、商工)経営の推進と、新たな地域雇用の創出》

- 水産加工6次産業化事業…315 ■農商連携支援補助金(特産品開発・販路拡大)…5,730
- 新規就農者支援金補助金…8,520 ○甑地域畜産指導事業(畜産指導員の配置)…4,735

代表質問質疑応答の概要

*代表質問の一番最後に登壇しました。質疑応答の概要は以下の通りです。

【質問1】新年度予算について

(質問の背景)新年度予算編成にどのように意を用いたか、またどのように評価するか。

【回答】

平成27年度から交付税が漸減することを念頭に、経費節減に努め、厳しい財政状況の中で、市民に元気が出るよう配慮し、不測の事態に対処できるよう基金積み立てに意を用いた。

【質問2】組織機構再編について

(質問の背景)合併後10年を待たずに支所廃止の方針が打ち出され、市民には戸惑いがある。

- (1)組織機構再編についての説明会での市民の反応はどうだったか。
- (2)地区コミや自治会の自立についてどのような認識を持っているか。また今後どのように連携していくか。
- (3)(仮称)市民サービスセンターで行われる所管事務は、支所廃止後どうなるのか。
- (4)(仮称)甌島総合振興局はどのような業務を行うのか。
- (5)(廃止になる)観光交流部及びシティセールス推進課の総括と、NPO法人薩摩川内市観光協会とのタイアップは大丈夫か。
- (6)職員の資質向上策はどうしているか。また、平成27年4月までに職員数を1,100名以内にするとしているが、達成可能か。

【回答】

- (1)20地区で211件の意見が出された。支所廃止により、「市民サービスが低下するのではないか」「専門職がいなくなれば不安だ」などの意見が出された。
- (2)自らの地域は自らの手で何とかしようという気概があるので、48地区コミ協会長会を通じて、地区コミや自治会の自立について研鑽を深めたい。
- (3)諸証明書の発行の他に予防接種などの手続きも行う。第1段階の状況を踏まえて、平成32年度以降の所管事務については検討する。今のところ明言できない。
- (4)薩牟田瀬戸架橋完成後、産業振興や教育関連など総合的な業務を行う。
- (5)工程表では、交流人口目標が250万人であったが、264万人を達成したものの、シティセールスサポーター5,000人に対して、4,169名と未達成のものもあった。ただ、シティセールスの基本理念が市民の間に広がったことは実感できる。NPO法人薩摩川内市観光協会とのタイアップについては、新しい観光シティセールス課がしっかりとその責任を果たす。
- (6)市の人材育成基本方針に沿って、職員に資質向上に努めている。また、部課長を講師にして、各課の問題提起なども行っている。



【質問3】農林水産業の振興について

(質問の背景)後継者不足により、本市の農林水産業は停滞傾向にある。振興策をどうするか。

- (1)本市の農林水産物の生産額はどうなっているか。
- (2)農地の荒廃地の現状及び今後の対策をどうするか。
- (3)後継者不足と新規就農者対策をどうするか。
- (4)6次産業化の現状と今後の機運醸成をどうするか。
- (5)本市の農林水産業の振興及び展望をどう捉えているか。



【回答】

- (1)5年前と比較すると、総生産額は155億円で106,8%の増加。肉用牛、酪農、養豚、ブロイラーなどは、88,5億円で100,9%と横ばい、水稻、野菜などは35,6億円で85%と減少、林務水産部門は30,5億円で203,4%の増加などとなっている。
- (2)平成22年度の耕作放棄地に関する調査では、2,345戸で、耕作放棄地率は23,1%である。要活用農地が担い手・認定農業者へ集積され、生産性の向上による経営の安定に資するよう農業委員会や農業公社と連携を深めていく。
- (3)北薩地域振興局、JA北さつま、農業委員会、農業公社と連携を深め担い手農家育成に努める。
- (4)樋脇町倉野の豆腐、入来町大馬越地区のしそジュース【写真】、祁答院町松田農場のキンカンなどがある。キビナゴ等の6次産業化による通年販売ができるよう、24年から積極的に取り組む。
- (5)今後は、農業者や農業生産法人、食品産業、直売所、レストラン、宿泊施設など地域の各部門と連携を図り、地域の総合力を生かした農業の高度化、6次産業化のとりくみを推進する。

【質問4】市長の政策の継続性及び次期市長選挙出馬の意志について

(質問の背景)伊藤知事は今年7月の知事選への出馬表明をしている。岩切市長はどうするのか。

【回答】

今議会最終日まで、出処進退については明らかにする。

***3月27日の最終本会議で、次期市長選挙の出馬表明がありました。**

【質問5】教育関連について

(質問の背景)2015年に国民文化祭が開催されるが、本市としてどのような認識で取り組むか。

- (1)廃校及び廃校予定の学校の耐震化はどうか。また利活用策はどうなっているか。
- (2)本市に、伝統的郷土芸能の数はいくつあるか。また、維持保存の手立てをどうするか。
- (3)国民文化祭は本市を売り込む絶好のチャンスだがどう考えるか。また(仮称)「国民文化祭プロジェクトチーム」を立ち上げる考えはないか。

【回答】

- (1)文部科学省の通達により、平成27年までに全ての学校の耐震化を図ることになっている。学校施設は0,7以上という強度が求められており、それ以下の数値が出たところは全て耐震化を図る。
- (2)市内には109の伝統的郷土芸能があり、活動中が88,21が活動休止中となっている。春の芸能祭や国分寺秋の夕べ、生涯学習フェスタなどに出演してもらったり、また、DVDに記録したりするなど、保存に努めている。
- (3)薩摩川内市には、文弥節人形浄瑠璃やトシドンなど国指定の無形文化財があるが、これらの発表の場として名乗りを上げたい。また、国民文化祭のスケジュール等明確になった段階で、市を挙げたプロジェクトチーム立ち上げについては検討したい。

今議会のトピックス

1. くじ運に見放された？

代表質問や一般質問は、通告書を議会事務局に提出し、くじを引いて発表の順番を決めます。私は、2月23日、一番最初に代表質問の通告書を提出しましたが、何と一番最後のくじを引いてしまいました。その結果どうなるかということ、質問項目がダブった場合、まるで「後塵を拝する」感じで2番煎じのような質問になるわけです。「私なりの切り口で質問します」とは言ったものの何か調子に乗りきれません。しかし、当局の方々は偉いと思います。同じ質問に対しても「〇〇議員にもお答えしましたが」と言いながら丁寧に答弁してくれました。

2. 忖度(そんたく:心を推し量ること)

次期市長選挙出馬について他の議員が市長に質問しました。答弁は「代表質問で、私自身の私的なことを話題にしたくない。今会期中に結論を出します」ということでしたが、「出る」「出ない」ということはぼかされていました。そこで私は同じ質問をするのに、作戦を立てました。「健康体であり、当初予算にも継続の気概が溢れている。恐らく岩切市長は、出馬するということを議会最終日に明言されるであろうと”忖度”しましたが、この忖度に誤りはありませんか」と質問したところ、市長は顔を紅潮させながら、「そういうことになると思います」と答弁されました。

「忖度に誤りがないか」とは、我ながら上手くいきました。

「人が輝き 地域が輝き まちが輝く」

未曾有の東日本大震災発生から瞬く間に一年が経過しました。あの日のすさまじい光景は今も脳裏から去りません。自然の猛威の前には、人類の英知が何と脆いものか思い知らされました。

被災地の復興はなかなか進まない状況ですが、何と言つても福島第一原発の事故は深刻なものがありません。家庭は離散、コミュニティも崩壊し、町や村の存続さえ危ぶまれています。同じ原発を有する自治体としては他山の石と片付けられません。

日本人としての絆を深め、総力を挙げて復興に当たらなければなりません。

この大震災の影響で、我が薩摩川内市も財政の不透明感が漂い始めましたが、それでも、市民の皆さんの安全安心な生活を維持できるよう努めなければなりません。薩摩川内市が誕生して八年目を迎えました。組織機構再編案が示され、支所廃止、市民サービスセンター設置などが取り沙汰されています。離島もあり、県下最大の面積を有する本市ではあります。行政の光が届かないことのないよう意見提示し、明るく快適なまちづくりのために、なお一層頑張ります。

なお、今年一〇月には市議選挙が行われます。議員定数が八名減の二十六名となり激戦が予想されます。私自身、**人が輝き 地域が輝き まちが輝く**というテーマを掲げて、三期目の挑戦をする覚悟です。

これまで同様ご指導よろしくお願いたします。